

# 中心市街地活性化フォーラム

～<sup>まち</sup>地域で考える「都心」の魅力とその将来～

## 報 告 書



日 時  
平成26年11月22日（土）  
14:00～16:00

会 場  
クロスパルにいがた  
4階 映像ホール

主 催  
新潟市中央区自治協議会  
（拠点と賑わいのまち部会）

中心市街地活性化フォーラム  
～<sup>まち</sup>地域で考える「都心」の魅力とその将来～  
報 告 書

目 次

1. シンポジウムのプログラムと出演者プロフィール……………	2
2. 開会あいさつ 中央区自治協議会 会長 阿部 洋一 氏……………	5
3. 部会報告 「拠点と賑わいのまち部会」活動報告…………… 中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」座長 高橋 幸夫 氏	6
4. パネルディスカッション…………… ～ <sup>まち</sup> 地域で考える「都心」の魅力とその将来～ コーディネーター 平川 毅彦 氏 パネリスト 山口 浩二 氏 齋藤 正行 氏 松崎 利春 氏 池田 博俊 氏	8
5. 閉会あいさつ…………… 中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」副座長 田中 豊 氏	34
6. アンケート集計結果……………	35
7. おわりに…………… 中心市街地活性化フォーラムを振り返って	42

## 1. シンポジウムのプログラムと出演者プロフィール



### 〈シンポジウムプログラム〉

司会 部会員 沢井 浩

13 : 30 開場

14 : 00 開会あいさつ

中央区自治協議会 会長 阿部 洋一

14 : 03 部会報告「拠点と賑わいのまち部会」活動報告

中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」座長 高橋 幸夫

14 : 10 パネルディスカッション

～<sup>まち</sup>地域で考える「都心」の魅力とその将来～

コーディネーター 平川 毅彦 氏（新潟青陵大学 教授）

パネリスト 山口 浩二 氏（新潟市南商工振興会 副会長）

齋藤 正行 氏（万代シテイ商工連合会商店街振興組合  
副理事長）

松崎 利春 氏（新潟中心商店街協同組合 理事長）

池田 博俊 氏（新潟市都市政策部 部長）

15 : 55 閉会あいさつ

中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」副座長 田中 豊

## 〈プロフィール コーディネーターとパネリスト〉

### 【コーディネーター：平川 毅彦 氏】



新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科 学科長・教授  
平成19年から現職。平成23年4月から平成25年3月まで新潟市中央区自治協議会会長。主な活動として、新潟市中央区地域健康福祉推進協議会委員長、新潟市中央区自治協議会アドバイザー、社会福祉法人新潟自立生活福祉会評議員をつとめる。

主な著書・論文は「新潟市における中心市街地の『魅力』と課題ー市民対象アンケート調査データを中心としてー」『新潟青陵学会誌』第6巻1号、pp. 79-87（2013年）、「地域における新たな共生・共助の拠点形成とモデルの構築」事業報告書、新潟県社会福祉協議会・新潟青陵大学（2014年）がある。

### 【パネリスト：山口 浩二 氏】



新潟市南商工振興会 副会長／NIIGATA 光のページェント実行委員会顧問  
1961年福岡県筑紫野市（大宰府の隣町）に生まれる  
1990年（平成2年）新潟に移る、同年 株式会社新潟米山薬品 入社  
1992年光のページェント実行委員会に入る  
1997年新潟市南商工振興会 手伝い（先代より理事）  
1998年同社、社長に就任、同年 光のページェント実行委員長就任（現在は顧問）

2011年新潟市南商工振興会 副会長 現在に至る  
主な活動として、一般社団法人関東しろあり対策協会 理事、新潟県しろあり防除協会 会長、新潟市自治協議会委員、新潟市民生委員・主任児童委員、新潟市天神尾1丁目自治会長、新潟市立宮浦中学校 学校評議員がある。

【パネリスト：齋藤 正行 氏】



万代シテイ商工連合会商店街振興組合 副理事長／シネ・ウインド代表  
1949年(昭和24年)4月9日 新潟市生まれ  
1968年3月 新潟県立新潟高等学校 卒業  
1985年10月 (有)新潟市民映画館 設立  
1985年12月7日 新潟・市民映画館シネ・ウインド 開館  
1987年10月 安吾の会 設立  
2005年11月 「新潟日報文化賞 社会活動部門」シネ・ウインドが受賞  
2007年11月 「街の記憶 劇場のあかり 新潟県 映画館と観客の歴史」出版  
(発行人)

現在の主な活動として、新潟・市民映画館鑑賞会 顧問、安吾の会 世話人代表、安吾賞 選考副委員長、新潟NPO協会 常務理事がある。

【パネリスト：松崎 利春 氏】



新潟中心商店街協同組合 理事長／(株)岩船屋 代表取締役  
1922年(大正11年)に現在地古町に創業した「宝石と時計の専門店/岩船屋」の三代目。  
現在は、社長業をこなしながら古町に活性化に取り組んでいる。  
新潟古町まちづくり株式会社 代表取締役。  
昭和35年生まれ、54歳

【パネリスト：池田 博俊 氏】



新潟市都市政策部長  
沼垂生まれ。1978年市役所入庁。これまで関わった主なプロジェクトは、「千歳大橋建設」「マンホール蓋デザイン」「第四次総合計画策定」「雨水浸透柵助成制度」「下水道絵本創作」「小路めぐりマップ」「まちなか再生本部」  
2006年より まちづくり推進課長  
2009年より 政策監  
2011年より 都市政策部次長(都市計画課長兼務)  
2013年より 現職



## 2 . 開会あいさつ

中央区自治協議会 会長 阿部 洋一 氏



皆さま、本日はご多忙のところ、中心市街地活性化フォーラムにご参加いただきまして誠にありがとうございました。私は中央区自治協議会会長を務めております阿部と申します。よろしくお願いいたします。

区自治協議会は区民に身近なまちづくりや地域課題解決のため、地域におけるさまざまな意見の調整や取りまとめを行い、区役所と連携しながら、協働の要として活動する新潟市の附属機関でございます。

現在、中央区自治協議会は、平成19年度に第1期がスタートして以来、第4期を迎えました。委員数は38名で、コミュニティ協議会からの代表、区内の各種団体からの代表、学識経験者、公募委員などで構成されております。各委員は、毎月の全体会議のほか、中央区自治協議会がテーマごとに設置した3つの部会のいずれかに所属し、各部会で地域課題の解決に向けた取り組みを「自治協提案事業」として実施しております。

本日のフォーラムを企画した拠点と賑わいのまち部会は、昨年度から「中心市街地活性化フォーラムの開催」と題しまして、提案事業として委員10名で調査、研究、検討を重ねて参りました。

本日のフォーラムの前段では、拠点と賑わいのまち部会がこれまで行ってきた活動報告をさせていただきます。その後、「地域（まち）で考える都心の魅力とその将来」をテーマとして中心市街地の活性化に意欲的に取り組んでおられるパネリストの皆さまからのお話をいただく予定です。

先日の市政世論調査において、中央区に対し今後もっとも力を入れてほしいこととして「まちなかの活性化」の要望が非常に高いという結果が出ました。本日のフォーラムをきっかけにして、中心市街地、まちなかの活性化について、それぞれの立場や視点でお考えいただく機会として捉えていただければ幸いです。

以上、簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

### 3. 部会報告

#### ■部会報告■

#### 「拠点と賑わいのまち部会」活動報告

中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」座長 高橋 幸夫 氏



新潟市中央区自治協議会拠点と賑わいのまち部会の活動報告をさせていただきます。ただいま紹介いただきました高橋と申します。5～6分お時間をいただきます。

新潟市の中心市街地とは3つの商業地。1つ目は新潟駅周辺地区、2つ目は万代地区、3つ目は古町地区のことをいいます。それぞれ魅力ある地区が連携し、高め合うことによって、まちなかの活性化が期待されます。

自治協議会拠点と賑わいのまち部会の、ここ4年の取り組みを簡単にお話しいたします。

第3期平成23年度は高校生の余暇、購買行動のアンケート調査を行いました。平成24年度は、新潟市民4,000名を対象にした購買余暇行動の調査を行いました。この調査の内容はこの後、コーディネーターをお務めいただく平川先生のご担当でしたので、その中で触れられると思います。

第4期平成25年度は、まちなか活性化におけるアンケート調査を行いました。そして、平成26年度、中心市街地活性化フォーラムの実施となります。まちなか活性化におけるアンケート調査について、少し報告させていただきます。

調査対象としては、中央区のまちづくり団体、NPO、及び商店街組合など76団体に対して行いました。調査方法は、原則として郵送で依頼し、郵送で回収をいたしました。調査期間は、平成25年10月31日から11月14日とし、回収率41団体、54%の皆さんからお返事をいただきました。

結果としてご覧のような活動上の課題が分かりました。比較的多い順に並べて表示いたしました。役員の高齢化、新規加入者の減少、人材不足、通行者の減少、住民の減少・高齢化、大型店への顧客移動、空き店舗の増加、施設の老朽化、少子高齢化による購買人口の減少、商店街の将来像、商店街活動、再開発による活性化、などが挙げられました。

この結果、活性化を図る上でのキーワードは、少子高齢化や、高成長モデルに基づくまちづくり計画活性化が重要と思われます。そこで、第4期、平成26年、最終年度は勉強会を実施し、各地区の方に卓話をしていただきました。冒頭に申し上げました中心市街地、新潟駅周辺地区、万代地区、古町地区のまちづくりに関する取り組みや、課題を把握し、このフォーラム開催の参考にするため、次の団体と意見交換を行いました。

新潟駅周辺地区卓話は、新潟市新潟駅周辺整備事務所と、万代沼垂地区卓話は、沼垂小学校コミ協様と、古町地区卓話は、新潟中心商店街協同組合様と、そして新潟市の現状施策を把握するため、次

のテーマについて一つ目は、新潟市地域魅力創造部が作成した都心軸まちづくりイメージ映像のDVDや、新バスシステムBRTについても、担当課と意見交換を行いました。これを踏まえ、本日の中心市街地活性化フォーラムの開催となりました。

これで部会の活動報告とさせていただきます。以上です。

【資料】

### 新潟市の中心市街地とは・・・

**新潟駅周辺地区**   **万代地区**   **古町地区**

**本市最大の3つの商業地**  
**新潟駅周辺地区 ・ 万代地区 ・ 古町地区**

それぞれ魅力のある地区が連携し、高めあうことにより、まちなかの活性化が期待されます。

### 平成25年度アンケート調査概要及び結果

①調査対象：中央区の街づくり団体(NPO)及び商店街組合等76団体  
 ②調査方法：原則として郵送依頼、郵送回収  
 ③調査期間：平成25年10月31日～11月14日  
 ④回収率：41団体⇒54%  
 ⑤結果

- ・役員の高齢化
- ・新規加入者の減少・人材不足
- ・通行者の減少、住民の減少、高齢化
- ・大型店への顧客移動
- ・空き店舗の増加、施設の老朽化
- ・少子高齢化による購買人口の減少
- ・商店街の将来像、商店街活動
- ・再開発による活性化

考察 → 活性化を図る上でのキーワード  
**「少子・高齢化」**  
**「高度成長モデル」に基づく街づくり計画・活性化**

### これまでの取り組み

< 第3期 部会 >

- ・平成23年度 「高校生の余暇・購買行動」アンケート調査
- ・平成24年度 新潟市民4000名を対象にした購買・余暇行動 調査

< 第4期 部会 >

- ・平成25年度 「まちなか活性化」におけるアンケート調査
- ・平成26年度 「中心市街地活性化フォーラム」の実施

### 平成25・26年度 卓話(勉強会)の実施

< 目的 >

中心市街地(新潟駅周辺地区、万代地区、古町地区)等のまちづくりに関する取り組み状況を把握し、このフォーラム開催の参考とするためまちづくりの取り組みや課題について意見交換を行いました。

- ① 新潟駅周辺地区卓話・・・市新潟駅周辺整備事務所
- ② 万代(沼垂)地区卓話・・・沼垂小学校区コミ協
- ③ 古町地区卓話・・・新潟市中心商店街協同組合

その他、新潟市の現状施策を把握するため、下記テーマについて市担当課と意見交換を行いました。

- ・新潟市プロジェクト
- ・新バスシステム(BRT)



## 4 . パネルディスカッション

### ～<sup>まち</sup>地域で考える都心の魅力とその将来～

コーディネーター	新潟青陵大学	教授	平川 毅彦 氏
パネリスト	新潟市南商工振興会	副会長	山口 浩二 氏
〃	万代シテイ商工連合会商店街振興組合	副理事長	齋藤 正行 氏
〃	新潟中心商店街協同組合	理事長	松崎 利春 氏
〃	新潟市都市政策部	部長	池田 博俊 氏

【平川氏】 それではお忙しいところ、今日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。私も新潟生まれで30年ほど「家出」をしておりましたが、家族の都合で7年ほど前に新潟に帰って参りました。帰ってきたときに、中央区自治協議会さんから声が掛かりまして、気づいたら第3期の会長ということになっておりまして、同時にこの拠点と賑わいのまちについても、お手伝いをさせてもらった経緯がございます。そうした経緯で、誠に高いところから僭越でございますけれども、本日、コーディネーター役をさせていただきます。

さて、「地域（まち）で考える都心の魅力とその将来」というテーマについてあらかじめ確認しておかなければならないことがございます。ある会員の方が新潟市でこういうことをやると、フォーラムをやるとそれで終わってしまうのではないかとおっしゃった方がいました。確かにそういう面はゼロではないと思います。

しかし、この「まちで考える」というのは、確かに中心市街地が3カ所に分かれていて、これから見るように確かにシビアな、あるいはわれわれが持っている実感と非常に近い数字に直面しなければならないという現実がございます。だけど、こうした数字を見てあきらめてしまうのではなく、いずれも、やはり新潟の、自分たちの「まち」なんだ。そして、自分たちの大切なまちということを考えた上で、皆さまから考えていただけるような出発点としてのフォーラムにしたいと思います。

あまり理屈ばかり言っても仕方ありません。先ほど話に出たイントロとしてデータを見ていきたいと思います。

中心市街地をめぐる2つの調査、拠点と賑わいのまち部会で、提案事業として2年次にわたって調査を行いました。最初は予算が少なかったものですから、身近なところで、私が勤めております同じ法人内の高校生を対象として調査を試みよう。細かいところは、配布しております資料をご覧ください。その結果として、確かにその実感として、古町と万代シテイ周辺、新潟駅周辺、それから郊外ショッピングセンター、おそらく皆さまが感じているものとはほぼ同じような数字になったかと思います。

ただ、実際にそのまちに出かけるという方に限定すると、上の赤い数字で見るように、

その数字は高くなっています。結局、それぞれの中心市街地が、魅力がある・ないではなくて、実際にそこに来ていただくと、その魅力は感じていただけるのではないかと。これは、その特定の高校生の、特定の学年について以上に言えるのではないかと。翌年度、新潟市に居住する二十歳以上の住民全てを対象として、ランダムサンプリング、どなたも調査対象者として当たるような形で、一般的な世論調査の方法で調査させていただいた結果が翌年のものです。

そして、その結果はほぼ同じような結果になったわけです。古町周辺、万代シティ周辺、新潟駅周辺、そして郊外ショッピングセンター、確かに皆さんが感じているような実感といったものがこういう数字になっております。

しかし、高校生の場合でそうだったように、一般市民の方を対象とした場合であっても、やはり実際にそのまちを訪れている、あるいはその地区を訪れている方にとっては魅力のあるものだとすると、というふうに、その先に進めることができるのではないかと思います。

もちろん、われわれは魔法の杖を持っているわけではございません。1回くらいフォーラムをやって、急にこれらの数字がどんと高くなるようなものではございません。そこで本日、パネラーの方々にお集まりいただいたのは、そういったそれぞれの地区でこんなに魅力があるんだよと。あるいは、後半ではほかの地区からこういうふうにしたらもっとよくなっていく、同じ新潟のまちだ、同じ「新潟もん」だ、という気持ちをお持ち帰りいただければと思います。

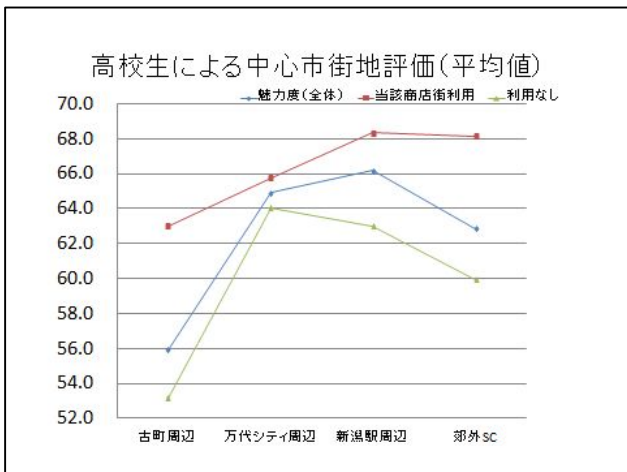
【資料】

**新潟市中心市街地をめぐる2つの調査結果から**

新潟青陵大学  
平川毅彦  
(2014年11月22日)

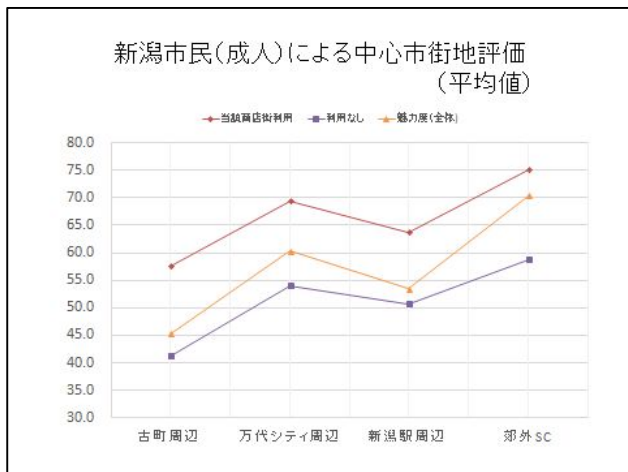
「高校生の余暇・購買行動と中心市街地の課題」

- (1)新潟市中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」(座長 長谷川 守英)提案事業
- (2)母集団:新潟青陵高等学校2年次生徒328名
- (3)有効回収数及び回収率 300票(91.5%)
- (4)調査時期:2011年12月
- (5)調査方法:アンケート方式による集合調査(自記式)



「新潟市民の購買・余暇行動と『新潟市中心市街地』に関する調査」

- (1)新潟市中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」(座長 長谷川 守英)提案事業
- (2)母集団 2012年3月末現在の住民基本台帳に登録されている20歳以上の市民
- (3)標本数 4000人
- (4)抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (5)調査方法 郵送法・無記名回答
- (6)調査期間 2012年9月26日 ~ 10月10日
- (7)有効回収数 1753人
- (8)有効回収率 43.8%



全体の流れについて説明させていただきます。

それぞれのパネラーの方から5分から10分でご自身の地区について、活動のお話をいただきます。どなたも雄弁な方々ですので、お話を始めると2時間、3時間と続く可能性がございます。私は心を鬼にしまして、約9分でベルを鳴らせていただきます。もし、どうしても続いた場合には、二度ベルを鳴らせていただきます。非情な役割ですが、ここは冷たい人間に徹したいと思います。

先ほどご案内にありましたように、池田部長が少し遅れております。当初、池田部長から新潟市における施策全般についてのお話を伺った上でと考えておりましたが、所用で遅れておりますので、まず古町地区の松崎様から、次いで万代地区の齋藤様から、そして新潟駅周辺地区の山口様からお話をいただき、おそらくそのくらいに池田部長が到着すると思いますので、4番目に話をさせていただこうと思います。

後半です。他地区へのエールという形で、今度は山口様、齋藤様、松崎様、そして池田部長という形でまとめていきたいと思います。後半はエールという形で考えています。また、こういう集まりですとフロアの方々からお話を伺うこともあるのですが、2時間という限られた時間です。アンケート等、お寄せいただいた上で、後ほど、また次の機会という形で、さまざまな思いを皆さまで分かち合って、そして私どものまちなんだ、自分たちのまちなんだ、だからどうしていこうか、もっとよくしていくためにはどんなことができるだろうか、という話ができると思います。

少々長くなりましたが、これから古町地区の松崎様からお話をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

## ■それぞれの地区における活動・取り組みについて

【松崎氏】 よろしく願いします。

それでは、短い時間ですがお付き合い願います。当古町商店街の中で、新潟中心商店街協同組合というものを立ち上げております。私は、理事長をさせていただいております松崎

利春と申します。

基本理念として古町商店街としては、この地区に対して、「スマートタウン古町宣言」というものを2年前から発表しております。新旧ミックスカルチャーの発信拠点となり、感性に響く街並みにしますということで、したいとか、要望とか、そういった思いというよりは「します」と宣言したと自負しておりますし、その言葉に嘘がないように行動しなければいけないと考えています。

ご存じだと思いますが、古町商店街というのは、各ブロックごとに振興組合が存在しています。ただ、そこがやはりランダムにいろんなことをやっても、まちとして一体型で進まなければいけないということなので、2年半前に集まって、新潟中心商店街協同組合という形で一つになっていろんなことを考えていこうと、発信できる受け皿をつくったということです。

それから、まちづくり会社をつくり、今、こういう形でタウンマネジメントの取り組みという形で商店街の魅力発信チームということで、いろんな形で取り組みが出てきています。

その中で最近ですと、誕生祭というものを年1回、都合2回開催しました。古町というまち、この新潟町が出来て来年で360年になります。そういった部分でできて発展していった。そういったところも含めてCGをつくったり、歴史を感じていただきながら、このまちが新しく再生するにはどうすればいいか。そういったことを考えております。

あと、古町商店街の情報。新潟は発信力が弱いとよく言われるので、その部分を、ウェブサイトをきちんとつくって、スマホやいろんな形でやっていこうと今動いています。

これが10月に「地域ナビゲーションアプリ：新潟ふるまち」ということで、このスマホを持っていらっしやらない世代も多いのですが、お孫さんやお子さんはお持ちになっている方も多いので、こちらに入れていただくとお店の案内ができたり、防災やそういった部分でもどこに逃げればいいのか案内してくれるアプリを開発して、今実験的にやっております。これをどんどん拡大していくことによって、まちを案内しやすいものをつくっていこうと。それをまた、そういった部分でやっていこうとしています。

あと、お店は預かったぞということで、若手のクリエイターの方と、古町商店街の店とか、コラボして店のイメージポスターを作成しました、店主はまったく自分たちでは考えていなくて、クリエイターの方々が勝手に店のイメージをきちっと捉えて作りました。21日から始まっていますので、ぜひ、古町通りに行くと、そのお店の看板のような形になって展示されています。

これは、今新潟市の文化政策課と一緒に、まちなかでアートを基軸に空き店舗対策も含めて、どう活性化できるかという実験事業みたいな部分なのですが、アーティストを招致して、作品をスタジオ内で制作しました。今日、そのオープニングイベントに、このように皆さん集まっていただきました。また先日もライブペイントだとか、いたずら書きもそうですが、そういう形でこれだけの人に集まっています。

今日オープンし、作品とコラボレーションしたNoism(ノイズム)2さんのイベントを、今日と明日、3時から行い、作品を見ていただく場をつくっています。アーティストが、このまちを原点として、どういうふうに考えるか。この作品の意図も、まちをコンパクト





### 古町誕生祭 (Furumachi Since1655)

明暦元年 (1655) 復元想像CG

### 「新潟ふるまち Official Guide Web」

- ・ショップ情報  
古町エリアのお店の紹介
- ・イベント情報  
古町界隈のイベント・催し物の紹介
- ・商店街情報  
古町エリアの各商店街紹介
- ・ふるまちレポ  
市民レポーターが「古町」の魅力レポート
- ・まちなか観光  
古町とその周辺(新潟県)エリアの観光スポットを紹介
- ・古町歴史館  
古町誕生から360年、貴重な歴史や専員復元CGなどで古町・新町の歴史を紹介
- ・古町へのアクセス  
古町へのアクセス経路や、「駐車場サービス」「バスで農業サービス」の紹介

### 「地域ナビゲーションアプリ：新潟ふるまち」

- ・ショップ情報
- ・まちなか観光
- ・施設・防災
- ・いまココ情報 (イベント通知)
- ・クーポン発行
- ・イベント情報
- ・なつかし写真 (AR)

### 古町商店街 × 新潟クリエイター ポスター展

お店はあずかつたぞ

新潟クリエイター 一同

### フルマチ・アートスタジオ アートコミュニティ事業

### フルマチ・アートスタジオ アートレジデンス事業





【平川氏】 ありがとうございます。手元のベルを鳴らそうと思っていたのですが、鳴らす前に終わってしまいました。もし、言い足りない部分がありましたら、パート2で補っていただければと思います。

続きまして、2番目のパネラーに移らせていただきます。齋藤様、よろしく願いいたします。なお、齋藤様に関してはスライドはございませんのでよろしくお願いいたします。

【齋藤氏】 皆さん、こんにちは。

すみません、スライドも何も用意してなくて申し訳ありません。私は、シネ・ウインドの齋藤正行といいまして、65歳になってしまいました。私がいるところは、伊勢丹の隣の第2駐車場ビルの1階に昭和60年、皆さんから1万円ずつ振り込んでもらって、5,000万円で映画館をつくろうと言って今29年目です。29周年祭をやっております。

そのエリアを通称「万代シテイ」と言っておりますが、私の肩書きは万代シテイ商工連合会商店街振興組合となっております。「商工」と商業と工業がつくのです。さかのぼると、新潟の人はご存じですが、昭和17年に新潟交通株式会社ことができました。国家総動員法で、新潟日報もそうですが、昭和17年にできた新潟交通さんが開発したまちです。だから、松崎さんの古町350年という歴史はありません。組合でいうと41年目です。

新潟交通さんが昭和17年ですから70年を超えていますから、若い方はもうお分かりにならないと思います。昭和39年、私が15歳のときに新潟地震がありまして、新潟交通(株)も破壊されてしまいます。万代橋の右岸です。左岸のほうも相当被害が大きかったわけです。

ですから、今見ているラブラの向かい、昔はダイエーさんですが、ダイエーの向かいに昭和39年までバスステーションがありました。私は覚えていますが、馬蹄式で、今のバスセンターよりも何となくイメージとしてもっと大きかったような。私が小さかったからかもしれないですが、バスがみんな入ってきて、外側から郊外とかいろんなところに行くとバスステーションがあった。すごく記憶にあるのですが、2階にステージ付きの待合室があって、その周りに一坪ショップみたいな商店街が張り付いていた。ステージは、いつも何か楽器の演奏や民謡とか、何だかんだやっていました。

後から聞きますと、新潟交通さんはクラブ活動が盛んで、フルバンドのオーケストラもお持ちでしたし、茶道部とか民謡部とかいろいろあって、その人たちが核になって、いろんな活動をご披露していた。それ以外にプロの人も来ていたのでしょうけれども、すごくバスステーションへ行くとは何でも楽しめたというのを覚えています。

それが新潟地震で壊滅して、当時若い中野進さんが、まちを再開発する。ほかの商店街もいろいろありますが、新潟交通さんがディベロッパーで、自分の敷地で自分の建物で、そこでまちをつくっていかうという成り立ちですので、非常に特異というか、よく言うとまとまりがある。悪く言うと新潟交通さん、強いリーダーシップというか、テナントの言うことを聞かないかもしれませんが、そういう特異性があります。

私がなぜこんな副理事長をやっているかという、50社くらいの組合があるのですが、ほとんど外資系です。外資系というか中央資本です。地元で事業をやっているのは、私とバスセンター2階のイタリアンのみかづきさんとか、数えるくらいしかありません。

最初の成り立ちは、今、ラブラ2ができましたが、シルバーボウル、新潟交通さんが経営したボウリング場で、その翌年に昭和48年にダイエーさんが出てきて、バスセンタービルができた。万代シテイ商工連合会ができます。それ以外のところ、私がいる第2駐車場ビルとか、伊勢丹さんとか、そこら辺は工場なのです。商工連合会ですから、今でも万代シテイの周辺を見ますと、ちょっと動きましたが加賀田組さんとか、シルバーホテルさんの裏は鹿島建設とか、清水建設とかゼネコンとか、自動車工場、修理工場、板金屋さんが付随していて、純然たる商業地域ではありませんでした。

それが、ダイエーさんができた。まだ皆さん、覚えていらっしゃると思いますが、都心型の総合スーパーがダイエーさんで、最初のお店で、全国1位の売上をつくった。次に伊勢丹さんができて、付随して第2駐車場ビルができた。ダイエーさんの脇に、弁天商店街から入ってくるところが第1駐車場です。それがダイエーさんに隣接している。

新潟交通さんの2万坪の敷地に入っているところを、万代シテイ商工連合会と名称して、通称万代シテイとあって、新潟交通さんの意思でつくってきた商店街です。ですから、新潟交通さんが駄目になると、駄目になるまちです。

それと専従も交通さんの社員がいますので、そういう意味で事務局もしっかりしている。ということで、今課題としては、先ほども平川先生の調査にありましたが、中心部というのに、古町も万代シテイも、駅前よりも郊外型というのが市民の意識だとすると、私たち三者も大問題なわけです。ここ2年くらいに再開発、40年たちましたので、ビルの老朽化と耐震強度を強くしなくてはいけないということで、ダイエービルもシルバーボウルビルもリフォームあるいは建て替えをしている状況です。

隣接する商店街、新潟交通さんのところにもう一つ事務局がありまして、東新潟商店街連盟、東商連といいます。駅前商店街、花園、それと弁天商店街、万代町商店街、それと万代シテイという組織も新潟交通さんのところに事務局があります。駅南まではいっていないのですが、その商店街の人たちと連携を組みたいと。

具体的にいうと、新潟駅から万代シテイに入ってくる時に、弁天商店街、東急インを通る道がありますね。それを万代シテイに入ってくるところでクランクがありまして、ストレートにまちに入ってこられないというのが問題。



もう一つは、バスセンターの隣に広大な空き地が、また幽霊ビルになるでしょうが、国交省の、昔の陸運局の空き家があるので、それを皆さんと共にとりか、国の建物ですが、国・県・市と共に、そこを再開発できればいいなと思っております。以上です。

【平川氏】 ありがとうございます。

続きまして、山口様からお話を伺いたいと思います。よろしくお願いたします。

【山口氏】 ご紹介いただきました、私、新潟市南商工振興会の副会長ということでやらせていただいています山口と申します。よろしくお願いたします。

今日は、万代、それと古町、駅周辺というお話でございましたが、私が携わっているのは駅南、けやき通りを中心に活動させていただいております。

また、新潟市南商工振興会というのは、私どもも政策集団ということで動いております。政策集団は何かと申しますと、今回もこういうことをやっていますが、30年前に、私どもの先輩方が駅の高架を掲げ市に陳情したという経緯もございます。また、今であれば鳥屋野潟の開発に注意しているといいましようか、一緒にいろいろな活動をやっているところです。

今日はこの光のページェントも、私、こちらに来まして25年になるのですけれども、ちょうど来たころから携わり、また今は新潟市の冬の風物詩ということでございますので、このページェントの歴史を紹介しながら、また、南商工振興会の活動を紹介させていただきます。

まず、ここに出ているとおり、今回12月5日金曜日から点灯します。これからちょうど26年前、まだ駅裏と呼ばれた時代に、クロワッサンのお店の宮田さんという方が、けやき通りを明るくする会というものをつくりました。そこに新しい専門学校ができるということで、かなり今、10校近くできていますが、その中でまだまだ暗い駅裏を何とか変えようということで、今、けやき通りにケヤキが約200本あるのですが、そのクロワッサンのお店の前、約17本に3万球、100万円で、近所のお店の方に声を掛けてスタートしたのが始まりです。

そして、今言いましたように、全ての木は200本、今は26万球ということで、約1,200万円かけてやっております。この12月からスタートし、1月12日月曜日の成人の日まで点灯します。夕方5時から24時20分ということで、新幹線の最終が着くころに、駅南に寄られる方は、駅南に降りて、帰ってきたぞというのを確認していただいて電気を消そうということをやっています。

27年やっておりますと、いろんなエコプロジェクトというのもあります。写真に出ているのは、近くにある笹口小学校の子どもたちなのですが、6年生がコーラスをやってくれて、この点灯式に花を添えていただけるわけです。そうやって子どもたちが通い慣れたけやき通りで、そして点灯式にこうやって歌える。だから4年生や5年生は事前に見に来て、来年、再来年はここで歌えるんだという楽しさを持ちながら来られます。子どもが来れば、もちろんご両親だったりおじいちゃん、おばあちゃんも来られるので、そういうところからこのまちの賑わいが生まれてくるのかなと思います。

あとはエコプロジェクトということで、こんなことをやらせていただいております。

この電球はLED化ということで、3年前から全部替えようと、市の協力も得ながら全部替えさせていただきました。エコにつながるようなことで、消費電力も10分の1ということで今もやっております。

このページェントだけではなくて、これも駅南会ということで、もちろんこの南商工振興会の中でカバーしておりますけれども、まずはその駅南会さんができて、こういうエコに携われるようなろうそく、またつくったものを購入して、南口の公園のところに火をともす。これも企業に協力してもらいながら、この新潟駅南地区を活性化といいたいでしょうか、動いているところでございます。

以上でこの光のページェント等についてはお話を終わりますけれども、また後でこれからの取り組み等についてお話させていただきたいと思っております。これで終わりたいと思っております。ありがとうございました。

## 【資料】


NIIGATA光のページェント 2014.11.22



- 新潟市南商工振興会
- NIIGATA光のページェント
- 山口浩二


### 光のページェントの歴史

- 今から26年前の1988年、けやき通りでお店をやっている人たちが集まって、「けやき通りを明るくする会」を作りました。
- クロワッサンの店、近所のお店に声をかけて、けやき通り17本に3万球(100万円)の電球をつけました。



### イルミネーションについて


- けやき通りのすべての木約200本に26万球の電球を設置。
- 12月第1週～1月第2週の毎日
- 17:00～24:20まで点灯
- 新幹線の最終列車が到着するのが、23:56。最終列車から降りた人々が明るい気持ちで、家に帰れるように、24:30まで点灯しています。



### プロジェクト

- Ecoプロジェクトでは、4つの取り組みを行っています。

- ① けやき通り・クリーンアップ作戦
- ② 点灯式でのリユース食器利用
- ③ ライトダウンイベント
- ④ グリーン電力証書システムの活用



## 電球からLEDに・・・



- 3年前から光のページの電球を、環境にやさしいLEDにしています。
- LEDの電力消費量は従来の電球の10分の1程度です。

## 障害者のみなさんと

- 今回のキャンドルナイトでは、会社から協賛金をいただき、そのお金で、障害者施設にキャンドルを注文しました。



ご希望の企業名や  
メッセージを  
デザインした  
キャンドルランタンを  
作ります

1セット(10個)  
5,000円



【平川氏】 ありがとうございます。

少々ベルの薬が効きすぎたようです。皆さま、時間に余裕を持ってしゃべっていただいているわけですが4番目になります。当初、新潟市における施策全般についてお話させていただくということで準備しておりましたが、アイドル歌手並みに時間に追われている方々ですので、若干順番を入れ替えさせていただきました。

池田様よりお話しさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【池田氏】 皆さん、こんにちは。

本日、上海に仕事に行っていて、帰りの飛行機が1時間も出発が遅れたものですから、本当に申し訳ございませんでした。せっかくお集まりいただいたのに恐縮です。

それでは、順番がずれてしまいましたが、私から、都心中心市街地活性化、この3地区の役割や課題ということをもとめてお話させていただきたいと思います。

あらためまして、こんにちは。池田と申します。よろしく願いいたします。

まず都心はどこかということです。古町地区、ずっと3地区のお話があったので、重複するところもあるかと思いますが、そもそも古町はいつできたのか。先ほど350年というお話もあったと思いますが、昔、今の寄居辺りにあったまちが、こちらに移って現在の古町になっているわけです。信濃川に中州がついて、ここに白山神社がありますけれども、ここへ移転して今の古町ができたということです。

1655年の町割りでこのようになったわけですが、すごい都市計画がされていたのです。通りごと、街区ごとに商いが決められていました。ここは本町通り、いわゆる市場、商店街です。ここは古町。本町には本町市場があって、古町7、8辺りが料亭街。実は古町5、6の商店街は旅籠町でした。現在の5、6の古町モールですが、これが江戸の終わり、明治の初めごろはこういう状況だったのです。ここは新津屋小路、旅籠町でした。

では、そのころの新潟の中心街はどこだったのか。ここ、現在のこんぴら通りです。これが他門川にかかっている橋で、これがこんぴら通りですが、一番賑わっていた場所がここです。榎谷小路に、昭和12年に小林デパートと大和デパートが相次いで進出して、これ

から一気に榎谷小路、古町の商店街の集中が始まります。これはすごいですね。この写真を見たときに、私もこんなことがあったのかと思ったのですが、榎谷小路、古町に人があふれた。

古町のアーケードは、昔のこういったアーケードをオーバーアーケードに替えて、歩きやすい、楽しいまち、商店街づくりを進めてきました。忘れていけないのは、大和デパートの前の伊藤さんという社長さんという方ですが、この方が非常に熱心に、熱意を持って新潟の古町に駐車場をつくらうということで、地下街、西堀を大規模な地下駐車場と商店街をつくりました。こんな感じでやったのですが、オープンの日、入り口がこんな状況です。本当に地下街も賑わっていたわけですが、残念ながら、今、なかなか、そういうところからはほど遠いという失礼ですけども、そういう状況です。

榎谷小路の昭和初期の姿がこれです。このように変わりました。郵便局と第四銀行があります。このアーケード、榎谷小路商店街の方々がリニューアルの工事をして、今こういう形で、この榎谷小路商店街の方々は頑張っているらしいです。

本町。現在もこのぶらっと本町というアーケード、これも地元の商店街の方々が事業を興して頑張って賑わいづくりに寄与しているらしいということです。何よりも、大和デパート。大和デパートを何とかしないといけないということが、今大きな課題だと思っています。抜本的な対策に向けては、旧大和跡地の再開発、それから基幹公共交通、古町の魅力、花街などの魅力づくりなどを、われわれ市としてもいろいろ手がけていたり、力を注入していたり、あるいはすでに始めているところもございます。こういった課題、抜本的対策が必要だと思っています。

次に新潟駅周辺です。大正の、沼垂との合併のときの、信濃川がこうやって、もとの古町、先ほどにもありますが、江戸からのまちがずっとこういうふうにできているわけです。これはまだこのときには木の万代橋です。ここに新潟駅がありました。旧新潟駅が開業されて昭和10年に建て替えられて、それが現在の代々木ゼミの前、ここに旧新潟駅がありました。

昭和12年以降、生産都市等々でどんどん産業が発展する中で、新潟駅をもっと、さらに発展させたところに移そうという計画で、現在のこの場所、万代橋ですが、榎谷小路、そこへ移転させるための区画整理が始まりました。そのときの絵です。まだ線路は敷いていませんが、ここを区画整理で広げたわけです。オープン時の駅前広場ですが、昭和33年にできました。現在のものです。バスセンター、バスターミナルも、今でもめずらしいのですが、スイッチバック方式のバスセンター、バスターミナルになっております。

東大通り、オープン当初はこんな感じだったのです。土地区画整理時点でこのような状況で、鳥屋野潟はほとんど田んぼです。今はこうなった。一番の問題は、南北の市街地を、線路が壁となっている。これを何とかしないと、南北の一体的な開発、発展は望めないということで、その課題解消に向けて、駅の連続立体交差事業というものをやっています。それについては、また後で詳しくお話しさせていただきます。

3つ目に万代ですが、先ほどと同じ地図です。これが万代島です。このときまだ万代シテイがあるところは川の中です。これが昔の駅です。このようにどんどん、州がついていて、埋め立ててきっちり区画整理されて、ここに新潟交通が進出するというので、



徐々に始まっていくわけです。それは当時のバスセンター、新潟交通のエリアですが、今は万代シティ、新潟駅と古町の結節の場所とも言えるところに、こういったまちがある。

先ほど齋藤さんもおっしゃっていましたが、ここの課題としては、本格的なリノベーション、リニューアルですね。それに向けて旧運輸局跡地の活動、それからやすらぎ堤とのつながり、賑わいづくり、信濃川、水辺、それが万代シティの課題だと思っております。

今、チンというのはやめてください、ということですか。あと1分。

これ、大事なことでパッと飛ばさせていただきます。新潟駅と万代と古町。この赤いところは新潟中心市街地として法的にも位置づけられているのですが、そこに人口と面積、赤い部分ですが、ほんのわずか、これくらいです。その中に、店舗数が23%、事業所数で13%、これだけひしめき合っている。新潟市全体の中でこれだけある。

それから、賑わって。ちょっと飛ばします。大事な部分を。もともと地価が高い場所。それが中心市街地の特徴で、それが重要なポイントです。郊外の大規模店に比べると固定資産税をこんなにたくさん、払っていただいております。まちなかは税収に貢献、つまり市の財政に貢献していただいているわけですので、まちなかが元気にならないと、新潟市全体が寂しくなるということですので中心市街地活性化は不可欠だということを申し上げて、時間超過しましたけれども、申し訳ございません。ありがとうございました。

【平川氏】 どのような方も平等に扱うのがコーディネーターの役割でございますのでご勘弁ください。9分で1ベルが、10分で2ベルという仕組みになっております。

3地区、それから行政の方からそれぞれの視点を出していただきました。まず現状、それぞれの課題といったものを出していただいたわけです。

後半に入らせていただきます。すでに最初のところでデータをお示したように、そこにいらっしゃる方々がご自身の地区の課題、あるいはどうしたらいいのか、あるいはどのようにしたらさまざまな課題が解決するのか、しないのかというのは一番ご存じだと思います。

ですから、後半はあえてご自身のところではなく、ほかの地区に対して、こうなったらよくなるよ、あるいはこうするといいよというエールをいただきたいと思います。

どこが悪いということは、あらかじめ分かっていることですので、あえて、ほかの、それぞれのご自身の所属する地区以外のところに、こうしたらというエールをやっていただきたいと思います。同じように10分という枠内で進めたいと思いますのでご協力よろしくをお願いします。

それでは順番を逆にいたします。まずは山口様からよろしくをお願いします。

## ■他地区へのエール

【山口氏】 南商工振興会の山口でございます。

今、先生から他地区へのエールということで、お話をいただきました。なかなか、よそ様のことというのは、なかなか分からないことがあります。私どもは、これからこういう

ことをやっていきますよということをご紹介しながら、何かの足しにといいましょうか、していただければありがたいかなということで作ってみました。

今後の展開ということで、今、いろんな、BRTの問題等々ございますけれども、僕ら、南商工振興会は、やはり夢というのはワクワクしなければいけないというものがございませう。一番上のところは、モノレールを推進しているということで、モノレールが走っているところです。これは駅南のプラカ2、3の間を走り抜けるところなのですが、上から見ることによって、子どもたちにおいても、大人の方でも、高いところから見下ろすと気持ちが高ぶるんじゃないかということで、私どものホームページでアップさせていただいております。

これは後で出てくるのですが、私ども、スプリングフェスティバルというのも34回やっております。その中で、昔のいいものとしては、花火というのを鳥屋野潟であげていたので、それを復活させようということです。2011年は3月の地震で県から花火だけはやめてくれということで自粛ムードがあったものですから、それはやめて、その翌年から復活ということで、この花火をあげさせていただいております。

私ども、この光のページェントの中で、先ほども言ったと思いますが、寒くて暗い冬の新潟を何とかしたいということで始まり、子どもたちに夢をというのが理念としてございます。子どもたちの夢というのは、しっかりと大人がつくっていかねばいけない。また、先ほども笹口小学校のお話がありましたけれども、その小学校の子どもたちが、総合学習の時間ということで、7年前から、ちょうど27回やっていて、11回目から20回目まで委員長をやらせていただいて、ちょうどその初めのころに、総合学習の時間ということでいろいろ調べたら、仙台の七夕とか、仙台光のページェントが赤字で大変だということでした。

じゃ、新潟はここでやっているけれども、それはどうなんだろうということで調べたら、やはりなかなか厳しいということがあった。そこにあったのは、子どもたちに夢をというのを見たらしくて、子どもたちは僕らじゃないかということで、本当に子どもたちが動き始めました。実際に、子どもたちが総合学習の時間をつかって、実行委員会を開いたり、私どもが小学校に行って実行委員会を開いたり、子どもたちが素直な気持ちでいろんな意見をぶつけてくるのを私どもでいろいろ補って、いいものをつくりあげてきたという経緯はございます。

南商工振興会は、先ほど言いましたようにイベントもやっています。スプリングフェスティバル、そこには鳥屋野桜祭りとありますけれども、これが34回やったり、とやの物語も、9回目ですがやっています。先ほど言いましたスプリングフェスティバルの中で復活のカナール祭ということで、花火をやったり、今年はこの12月5日から点灯しますが、こういうことをやっている。これは経緯ですが、やっていますよということです。

そして、私どもだけではなかなかできないので、せっかく駅南広場がございませうので、JRさんと組んだり、そこにはUXさんやレクスンさんがございませうので、そういうところと一緒に組んで、南口にイルミネーションをつけてやるということです。これは、一つの団体ではできないので、いろんな地域を巻き込みながら進んでいくのが大切なのかなというふうにして、今は本当にいいスクラムを組んで、良い方向に向かっていると思ってい

ます。これも一つのイベントの中で、つくらせていただいております。

これも先ほど出てきたようにキャンドルライトです。Niigata キャンドルガーデン。駅南口でこんなところをやって、先ほど出てきたように障がい者の方を巻き込んでやっていただきながら、こういうものをどんどんPRしていつているというところなんです。

私どもも、こうやって地域に根づいたものを、27年間、もしくは先ほどのスプリングフェスティバルでは、34年間やっておりますが、一企業一団体ではなかなかできないと思っております。市のお力であったり、地元の企業等とやっていかなければいけないと思っております。

エールとしましては、私たちは単独でやるのではなくて、いろんなところを巻き込みながら進めていく。そういうところが点から線、そして輪に広がっていくのではないかと考えておりますので、各、古町、万代シテイにしても、いろんな団体、古町は一つになったということがございますので、そういうところはいろんなところと組みながら、まちの活性化が点から線、円に広がっていくと思っていますので、そんなところを私どもも目指していきたいと思っております。以上です。

## 【資料】



今後の展開  
他地区へエール！  
新潟駅南



## 光のページの理念

寒くて暗い冬の新潟に  
明るい光を灯し、  
みんなを幸せな気持ちにしたい。  
子どもたちに夢を  
もってほしい……



## とやの湖桜まつり 駅南でのイベント



とやの湖桜まつり  
にいがたカナル彩  
4/27

とやの湖物産  
9/16

カナル彩  
花火大会  
4/27

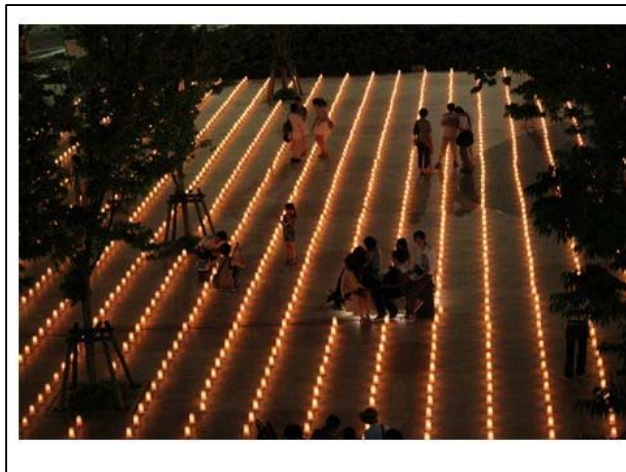
光のページ  
2014.12.5 - 2015.1.12



## 駅南広場でのイベント



2011 NISGATA 光のページイベント  
2011/12/4 ~ 2012/1/4



### 展開について



①新潟市からの協力



②企業からの協力



③諸団体

【平川氏】 ありがとうございます。  
 続きまして、齋藤様、よろしくお願ひします。

【齋藤氏】 両サイドにエールを送るんでしたっけね。遅れてきた池田さんの話が聞きたいと思ひますが。

池田さんの話を聞いていて、エールを送る前にいろいろ思い出しました。私が新潟に昭和 57 年に帰ってきて、平川先生よりも早く帰ってきたんですが、今の池田さんの話の、笹口ですので、弁天公園の前の駅から、昭和 34 年に今の新潟駅ができて、昭和 57 年に埼玉まで新幹線が通じたのです。そこで、私は駅の側だったので、土地が引かかる事件がありまして、それで戻ってくるようになったことを思い出しました。

笹口から東新中学へ行って、非常にアウトローな格好で新潟高校へ行ったのですが、万代橋を渡って、学校町へ行くと、「おまえは沼垂もんだ」とよく言われました。ここで言った人がいるかもしれないけど。

風土と権力者が違っていたわけです。池田さんの話ではありませんが、新潟町は長岡藩



から天領になった。一般的に東新潟というのは、溝口藩の新発田藩で、と言いつつ、今重要なところの万代島のところ、昭和4年に都市計画法ができて、万代橋が現在の石橋になって、坂口安吾の『吹雪物語』の書き出しが、「193X年、新潟は変わった」と。都市計画決定された街並みができていくわけですが、それと中央埠頭の新潟港が重要港湾港になって発展していくわけです。

南万代小学校から、今の駅南のプラーカの下から、長嶺小学校、今のほんぼ一と、それから万代町へ行って、西山本店さんがあって、それから港まで、古信濃川というのがありました。私の小さいときで覚えています。堀の汚いものですが、そこが境界線です。本来なら、大信濃川の真ん中から国境があればいいのですが、こっちは天領ですから、新潟町のほうに、天領のほうに所属していると。その地域を、万代シテイもそうですが、流作場という卑下した地名をつけて年貢を逃れたのだと思います。

そこに大河津分水ができて、昭和のはじめに池田さんの言ったように県やあるいは新潟交通さんがあそこを取得してできたわけです。私は、昭和57年に帰ってきて昭和60年にウインドをつくらせてもらうのですが、そして、様々な活動に商工会議所や新潟市とかで会議がもたれるのですが、その会場は、いつも新潟島なわけですから行くのですけれども、そこで東西の対立が非常にありました。私が思ったのは、万代橋商店街というか、駅から古町まで、万代橋商店街みたいなものができたらいいなと、そのときからずっと思っています。

先ほども言いましたけれども、万代シテイというのはすごく合理的なまちで、逆にいうと、地代に見合うような建物しかなくて遊びがないわけです。近くに大きな公園があるのか、それがやすらぎ堤に代わるのだと思いますが、路地もありませんし、古い建物もない。まったく新しくて、面白くもない。だから、まちとしては、ほかのところと組まない限り、来街者を満足させることができないのです。ただ、私らは郊外型ではありませんので、隣接したところに歴史的建物もありますし、一体化していくのが万代シテイの生きる道なんだろうと思っています。

あと、池田さんにというか、私も長く新潟におりまして、都市計画の中で、政治の継続性というか、あるものを必ずやろうというのは遅い早いにはありますが、今の新潟市、新潟駅舎、高架が、私が覚えているのは2014年にできあがる予定で頑張っていたと思うのです。遅れるのはあれですが、山の下から来ると渡辺浩太郎さん時代ですから、生前、会いに行つて話を聞きましたけれども、東西の、万代橋下流に跨線橋というか、大きい橋を架けようと。それが山の下から来ると、途中でぶつと切れていますからね。

それと、あと先輩たちがやったのが、万代橋下流橋をつくる。モール橋をつくろう、あと沈埋トンネルをつくろう。沈埋トンネルはできました。それと、東大通りの、万代シテイの下に地下歩道ができました。それを駅前までつなげようという建設省が言っておりましたが、その後の話はまったくない。交通さんは、万代シテイはペDESTリアンデッキというか、バス屋さんですから、車とぶつからないように、歩行者を上を上げようと。できれば、今、駅舎高架になるわけですが、そこまでつなげればいいという話をしていました。何て言うのか、政治が変わったときに、首長が変わったりすると、あるものが突然ぶつと切れるのでしょうか、何でしょうかね。第4次とか第5次総合計画つくりますよね。

10年後、20年後に。ほとんどやるかやらないか分からないものを書いてあるわけで、それを毎年こういうところで見直したらどうかなど。

そうすると、やはり地域、去年の人、今年の人、来年の人と、どこかつながっていくので、突然変わるということに対して理解していただけるのではないかというのを、池田さんの話がすごく良かったので、つい思い出して質問と意見を言いました。

先ほど言いましたけれども、駅前、山口さんのところと、松崎さんのところも、万代橋商店街とって、駅前まで一緒の組織ができたらいいかなど。実験的にバスで何とかとあるのですが、そういうのがそろそろできていいような気がします。

まだいいですか。後にとっておきます。ありがとうございました。

【平川氏】 ありがとうございました。それでは3番目、松崎様よろしく申し上げます。

【松崎氏】 ありがとうございます。皆さんエールを、ということでいろいろ考えております。

やはり万代シティと古町というのは、私が高校時代に万代シティができた覚えがありますが、あそこに行ってアイスクリームを食べるとか、新しいものを食べるというのは、高校時代にそういうふうな部分のイメージがあったと思います。

ただ、その中で、何となく万代シティと古町が、もっと身近な距離があったような気がしてしまっていて、行きやすかったようにしていたように感じております。精神的距離という部分なのでしょうけれども。歳をとってきて、こういう立場になってきますと、どうなんだ、と言われる方も多いと思いますが、本来であれば、私も商人としてまちで、暮らしをさせていただいている中で言えば、人が動いて、モノが動いて、だから商売は成り立つということです。人とモノ、そういったものが動くことが大事だと私は考えております。

そういう部分でいけば、今、できうれば万代橋商店街ですか、駅前までの一体型商店街、そういった部分で考えるのであれば、そういったことも可能であるかなと思います。そういった点では万代シティさんの部分で、本当に東京資本の、こちらから見て、岡目八目ではないですけども、東京のいいところだけ取って、ぼんぼんと置けるわけですから、そういったところは非常に紹介しやすい部分があるので、どんどんいいものを紹介していただけるような形を取っていただければ、県民や市民もわざわざ高い金額をかけて東京まで行かなくてもいいものが買えるということになってくるでしょうし。

そういった中で、駅、駅南という形でいくと、ビッグスワンとかああいうところで4万人も来場してサッカーのフェスティバルがあったり、野球があったり。そういった中で、駅南は玄関口であるという部分もありますから、そういったものをまちなかと連動させることによってまちの活性化がどんどん出てくる。ただ、やはりつながっていないのです。全部一つ一つにカンフル剤を打っていく。カンフル剤を打っていきながら、横はつながっていないので、血液が流れないから、どんどん腐っていく。そういう状況があるのではないかと、私は思っております。

古町も、昔から商店街同士仲が悪いと、今は皆さん、認識をしております。おやじの本当に若いころは、9番町、8番町関係なく、新潟大火がありましたから、一緒になってまちを復興しようと一体型で動いていました。その後、榎谷小路も含めて、商店街というも

のは、協同組合が2つになりました。オーバーアーケードをつくるなら振興組合をつくりなさいという法律ができたので、1ブロックずつ振興組合をつくっていくわけです。そうすると、全部別々の振興組合が、オーバーアーケードも形を変えてつくっていく。そうすると、差が生まれたり、比べ合う形になる。いい意味で比べ合っ、上昇していくという考え方であればいいと思うのですが、そういったところは、やはりそういった部分での違いを持たされていく部分があったと私は思っております。

ですから、今、組織として一体化したことで、5番町から9番町、柗谷小路もそうですし、まちをどうするのだという話ができるようになりました。若手の会という形で飲み会を始めており、いろんな方がどんどん参加してくるようになってまいりました。そういう意味で古町も少しずつ変化をしていると思っております。その上で、連携ということで、この地域、駅周辺、万代、古町の3地域が100円でバスが乗り降り自由ですよといったら、どのくらいの人に来るのか、どのくらいの人が動くのかと思うと、連携することが本当に必要ではないかと思えます。行きやすくて過ごしやすいまちなかが活性化してくる姿を見れば、あそこに行って見たいと思う方が多くなると思えます。

特に最近思うのは、数値的なものをつかまなければいけないと感じています。四国の商店街に行ったときに、郊外とまちなかで3世代分で税金、払った金額が、どのくらい違うのですかと。60倍だそうです。四国の商店街の会長さんがおっしゃっていました。

郊外とまちなかの税金といった点でいくと、古町、万代、駅前、だいたい35万から40万というのが路線価で、イオンですと3万9千円だったかなと思いますので。8.5倍から10倍です。ということは固定資産税とか税金の持ち分も、そういうふうになってくるという中で、イオンさんに関しては、非常に節税がうまくて千葉の本社で決済をしており、地域に税収が上がらない。その中でまちなかが疲弊していく。こういう構図の中で、じゃあ、どうすればいいんだというところは、やはりうちら全員で考えなければいけない課題だと、私は感じております。

だからこそ、駅前だ、万代だ、古町だと言っている前に、本当はこのまちをどうしたらいいんだらうと、そこが大事かなと常々思っております。そういった点では、奇しくも万代シテイの万代橋商店街というお言葉をいただいて、そういった一体型でできるということであれば、そういう方向性もやはり、これから真剣になって考える時期がきているのではないかと思っております。こんなことでよろしいでしょうか。

**【平川氏】** ありがとうございます。多様なキーワードが出てきました。このキーワードをまた皆さまと共有できればと思います。私がまとめるよりも、次は行政の立場から、その3つの地区にどういうエールを送ることができるのか、あるいは行政の方向性として、池田様個人でも結構ですのでご意見をいただければと思います。よろしくお願ひします。

**【池田氏】** ではあらためまして。

人は歩く。みんな、車ばかりで歩かないとおっしゃいます。郊外店は例えば、普通、ここで買い物をするときに、この辺に車を止めて、すぐパッと行きますが、満車だった。この辺にとめて、エッチラオッチラ買い物をした。同じスケールで古町に落としますと、こ

こが大和、三越があって、ここがイトーヨーカドーの駐車場。ここに車を止めてトコトコ歩いて三越で買い物をするのと同じくらい実は大規模店舗でも歩いているという現状です。

では新潟のまちはどうか。駅、万代、古町、この距離はだいたい2キロくらいです。札幌は、札幌駅からすすきのへは本当に歩きます。札幌へ行かれたことのある方は、本当に歩きます。地下道がずっとありますので、駅からすすきのへは地下道を歩きます。そのほか、地下鉄があったり、いろんな交通手段があります。

この距離は、新潟におとすとどうか。駅から他門辺りまでです。ちょっと延びれば古町。札幌のまちとあまり変わらないのに、なぜこの3つが結ばれないかというのは、やはり車社会ということがあります。

ここに基幹交通で3つをつなぐというのは大事なポイントだと思います。車の依存率が高いので、何とかこれを変えていかなければいけない。交通の考え方を変える。今まではA点からB点まで1秒でも速く着くというのが大事な考え方でした。でも、30分早く出て、バスの中で新聞を読んだり、ケータイをいじったり、参考書を見たり。こういう時間を過ごそうと。それから、道路のあり方を変える。

新潟市の土木予算が、交通の予算、見えますでしょうか、ほんのわずかです。土木系の職員、交通系の職員がほんのわずかです。日本の行政はずっとこうだったのです。でも欧米は、まったく逆です。こういう大きな都市計画道路をばあんと通しますが、ここで何百億円かかります。何百億円かかりますが、車を運転しない方にとっては、その恩恵を受けることはできない。ここをトコトコ歩くだけ。ここをトコトコ歩くのが大変だから、歩く歩道をつくるかといったら、そんなことはできるわけがない。

そこで、いろんなまちでは、歩く歩道という意味合いで、こういった公共交通が充実しているわけです。新潟市は、接続バスだけにこだわらないのですけれども、こういったバス網で、それを補おうと考えています。そうすることで、全部車で出かけていけば、バスでこれだけの余裕ができる。そうすると、まちなかにこんなに余裕ができて賑わいに貢献ができるという考え方です。

でも、どんどんバスの便数は減っていますし、利用者も減っています。このままでいくと、今走っているバスも走らなくなる。どんどん廃止されていく。そこで公設民営、新潟市と新潟交通が新しいバスシステムを考えました。現状はお分かりだと思いますが、遠くからどんどん、まちなか、古町、新潟駅にバスが集中します。です、これだけ、この部分区間にバスが集中するのです。ある日の昼間、これが全部、榎谷小路にあるバスで、瞬間で13台。バスの団子運転なのです。新潟駅が3台並んでいる。ここに乘っている人たちをここでまとめれば、この2台はほかに使えますよという簡単な理屈でいうと、そういうことです。

です、一旦、ここで乗り換えということは、これはどうしてもご迷惑をおかけするわけですが、そうすることで、今ここに余りがあったバスを外に回すことができる。これも最近すごく誤解されているのですが、乗り換えでも料金は同じです。これだけは覚えておいてください。

まず、歩いて楽しいというまちをつくる。これが大事だと思っていて、美的景観、歩道の利便性がいいというまちは、歩行量が増える。それから、きれいな散歩道があると、



5年生存率が18%高い。厚生労働省の記録なのですが、人が1歩歩くと、0.0014円医療費が下がるというデータを国が出しています。新潟の人口81万人で、15歳以上が70万人います。70万人の人たちが、毎日車をやめて3,000歩以上歩くと、なんと年間10億円の医療費が削減できるという、単純計算ができる。それを基に新潟を変えるということです。

まず新潟駅。先ほど申し上げた新潟駅の4つの事業、駅の高架化と4つの都市計画道路、それから駅前広場と白山駅などの整備を進めています。これで先ほど、本当は2014年というのが平成33年まで延びてしまったのですが、平成30年までには何とか工事のめどをつけます。平成33年には新幹線と在来線の一体化ができます。

その後、駅前広場や幹線を整備して、新潟駅の下を公共交通軸が通るということを実現させようとしています。これによってまちを一体化させようとしています。

駅前広場も、リニューアルが必要です。同じように民間の再開発が何とかできないかということで地元の方と一生懸命勉強会をしています。規模が全然違いますが、東京駅丸の内前のこんな風格のある再開発になればいいなという夢を抱いております。

次、万代です。万代はやはり信濃川。この信濃川とまちをつなげる整備が必要ということです。これはデザインコンペで提案されたものですが、これとそっくり同じになるかどうかは別として、こういった趣旨での整備を考えています。

今具体的に進めているのが、ホテルオークラからやすらぎ堤へ直接つなげるデッキの整備を、今設計等に入っております。来年くらいには具体的に動き出すと思っています。

万代シテイのリニューアルというお話もさせていただきました。その上で、バスセンターがかなり老朽化していますので、この旧運輸局跡地を何とかうまく活用をして、こんなバスセンター、これは名古屋の栄のバスセンターが再開発されたところですが、こういった万代広場も一緒に、空中庭園ができるような整備ができないかなと夢を抱いております。

最後に古町です。古町はやはり夜の魅力花街。無言で通り過ぎていますが、非常に魅力ある建物があります。三業会館も、古町花街の文化の拠点としてどんな形でやれるのか、われわれも一生懸命考えて、地元の方と考えています。

堀の復元。やはり大和デパートの跡です。もともと、このNEXT21のところに市役所がありました。まちの衰退、中心市街地の空洞化ということで、これはどこもそうですが、いろんな機能がまちから抜けました。行政、市役所も抜けたわけですので、そういった意味では、私がというわけではないかもしれませんが、行政もA級戦犯だと思っていますので、何とかこの再開発に組み込むためには、行政機能も必要だと思っています。

富山で大和跡地を再開発したビルです。何よりも地権者の方々、大和を中心としてもっと頑張って具体的な動きをしていただきたいと思いますし、私としては、あまり高層になるよりは、こういった、ある程度の高さで、ゆったりとした賑わいのある、そういう計画になっていけばいいなという夢を抱いております。

これも駅前、万代、古町と、それぞれ私の夢、まだ具体的な絵がないので、こういった絵で恐縮ですが、私の夢を語らせていただきました。そのために行政も、それからここに3地区の皆さんも、中心市街地活性化新潟の都心の魅力をつくりあげるために覚悟を持つ時期だと思います。それは「今でしょ」ということで、誰のために持つかと言ったらやはり私たちの次の世代。私たちの子ども、私たちの孫のために、こういった新潟のまちをし

っかりとつくりあげていくことが大切だと思います。

たった一人を幸せにするために。それをみんなが考え出せば、新潟市民全体が幸せになると、甘っちょろい言い方ですけども、考えております。そのために、この3人が新潟のまちなかをつくるというエールを送らせていただきまして、二度目のお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【平川氏】 ありがとうございます。もう私が何も言うことはないのかなという気もします。皆さんに時間厳守していただきましたので、少しだけ私も話をさせてください。

中心市街地をめぐる議論の中で、全国的な傾向でも、中心市街地と中心商業地あるいは中心商店街を分けて考えたほうがいいのかという議論がございます。そして、新潟青陵高校生の調査をした後に、拠点の部会で、実際にアンケートだけでは分からないので、実際アンケートに協力してくれた高校生何人かに集まってもらって、中央区自治協議会のメンバーといっしょにディスカッションをした覚えがございます。

その中で出てきたのが、いわば、例えば事業者の論理だと、たくさんお金を落としてもらおうといいよね。だから、経済活動が活発化するのだと一方的に考えると、高校生の理屈は、お金がない私たちは居場所がないということが話されたのです。具体的には、100円あればかなり長い時間いられたところが撤退してしまっただけで居場所がなくなっている。あるいはお金がないけれども、もう少しみんなと話がしたい。どうしても周りから追われるような形で居場所がなくなっている。居場所があつて、そういう人たちがまちを大切に思って、最終的にはそういう人たちがこのまちでしっかりと税金を納めることができるような働き手になると、最終的にはまち全体もうるおうのではないかと気がします。

そういう点で、こちらの3人の方々は、事業者でもございますけれども、いわば事業者であると同時に、このまちの住民として、多様な人たちを対象とした「たまり場としての居場所」についての議論ができればと思います。ですが、あまり余計なことを言うと、大学の教員が理屈ばかりこねていると、何人かから鋭い矢が飛んでまいりますので...

時間がもう少々ございます。御三方に、例えば、中心商業地と中心市街地に分けた場合、ご自身の地区といったものにどういうプラスの部分があるのか、一言ずついただければと思います。

それでは山口様からお願いできますでしょうか。

【山口氏】 私は、先ほど言いましたように、駅周辺というよりも、駅、駅南、けやき通りで活動をしていますので、駅前からというのは、なかなか答えが出てこないと思います。先ほど齋藤さんが言われたように、駅周辺から、そして万代、古町と、万代橋連合会みたいなものがつくれば、本当に面白いと思います。今、池田部長が言われたような、その距離が2キロということですので、歩くのもよし、そしてバスを利用しながら、移動できるというのもありなのかなと思います。

私自身は、つながりができればその活性化にもつながっていくのではないかと思います。もっと個々の力といいましょうか、けやき通りもまだ商店街としてはないので、そういうものを駅南会であつたり、南商工振興会が形成して、今言ったような万代橋商店街という

か、連合会みたいなものでまちづくりに寄与していければいいのかなと、答えになっていないかもしれませんが、そんなところです。

【平川氏】 ありがとうございます。

それでは齋藤様、いかがでしょうか。

【齋藤氏】 先生の質問は、中心市街地と中心商業地の違いということで。

【平川氏】 あるいはそれがイコールで結ばれていたことが多かったと思うのですが、例えばこれを分けて考えた場合、ご自身の地区をどのようにお考えですか、ということです。

【齋藤氏】 私は中心商業地なんて、あまり興味ないですね。中心市街地、つまり、私は前段で言いましたけれども、万代シテイは面白くない。というのは、地代にかけて家賃がいっぱい取れるような効率的な建物しかないので面白くないわけです。

と言いつつ、新潟交通さんはそれを分かっているんで、新潟地震以前は、前のバスターミナルも大劇場を持っていたし、今は老朽化していますが、バスセンター2階をシテイパークといって、イベントやコンサートができる状況にしています。ただ、それは、前者と違うのは屋外なのです。雨や雪が降った場合はどうするか。

先ほどの池田さんの話ではないけれども、また新しい公共空間みたいなものがないと、まったく魅力がない。それこそ高校生が、古町でいうと北光社で。今、北光社がなくて、大和がなくて、角、四隅がない。対角線上に目立つ待ち合わせ場所の位置がない。ウインドも、たまたま県外の人が多く来るわけですが「古町へ行きたいんだけど」、大和のところをまっすぐ行って、と言っても、「え」とか言って、非常に困るわけです。

古町は、まだそういう意味で歩いても楽しい街角もありますし、そういう施設というか、空気を持っていないとまったく魅力はないと思います。東京にあるものが万代シテイだと買えるからというのは、それはあまりあれなんじゃないかと僕は思っています。

池田さんのスライドの中で、古町花街と古い建物という話がありました。柳都振興も、私らの中野進さんがつくった柳都振興で、地方で頑張っているのはすごいと思います。何年前から振り袖の映画を撮ろうという話があるので、それも実現すればいいと思いますし、余計なことを言うと、誰か一人、誰かアイドルなんか言っていませんでしたっけ。先生はアイドルファンだそうですが、振り袖を誰かに、一人、誰でもいいんです。人気者にしてしまう。それもちゃんとプロデュースしてあげればいいのではないかと思います。

シネ・ウインドは映画関係ですから、この間も、直木賞は取れませんでした。和歌山の方が新潟交通の夜行バスで新潟へ来るという運転手さんの物語を映画化しようとか。映画というのは、万代シテイでロケをしたから、古町でロケをしたからどうだという、だからどうだと、物語はまた別にあるのであまり関係ないのですが、かかわった人はまた見方が変わるので、ぜひ、そういうロケが来たら皆さんも手伝ってほしいと思います。

そうやって一つずつ光っているのがあるので、それは新潟市の人もだんだんうまくなってきた。ただ、スターみたいなのを無理やりつくってしまうのもできそうな気がするんで、

面白くなると思っています。

ついでに。建物のほかに街歩き。県議の小島隆さんがいらっしゃいます。建物ばかり回っていても(仕方ない)。街歩きは建物ばかりではなくて文学街歩きと。坂口安吾をはじめ、新潟を舞台にした作品もありますし、生まれたところ、育った地域があるので、そっちを一生懸命、小島さんの命令で地道にやっております。ひょっとして化けるときがあるので、化けることを狙っていてもしょうがないので、地道にやっていると、どこかでアイドルが出てくるのではという予感がします。

【平川氏】 同じ質問で、松崎様よろしくお願ひします。

【松崎氏】 やはり、古町に若者が来ないとよく言われます。でも新大生に聞くと、やはり古町が面白いよと言っていたりします。なぜかという、たぶん、皆さんは息子さん、お孫さんの世代になると、コンビニで 200 円、これが若者の昼、ランチの金額です。では、古町から駅、これが 200 円、往復したら 400 円で(ランチ)二日分です。だから自然と来なくなる。どっちが先かという議論がありますが、じゃあ、新潟駅から万代は 100 円なのに、万代から古町までは 200 円です、同じような距離ですよ、そういった部分で考えると、そこで若者が古町まで来にくくなる状況がつくられている。その中で、こちらは大人の街にしようという選択もありだと思いますし。そういったところも含めて、全体的にどう交通体系も含めた形で考えていくのか。それも大事だと思います。

古町としては、店として魅力があれば、いくら払ってでも来る。そういう形になっていかなければいけない。実際に、ちゃんとお商売できているお店もいっぱいあります。老舗と言われている部分も含めて、専門店も結構多いので、専門店としてのちゃんとした知識を持っているお店がきちっと商売をしています。ただし、買い回りというのをあまりしなくなりました。あそこの店へ行って買って、駐車場に戻ってすぐ帰る。こういうのが今のお客様の考え方、行動パターンになってきている。それをどう誘客していくか。やはり店と店がつながって、今度それを買うならあっちのお店がいい品物がありますよと、そういうふうで紹介し合えるまちになるのが大事ななと思っています。

そういったことも含めて、若い人たちが来やすい環境というのは、大人がつくらなければいけない。できれば、お願いですが、学生さんとか、がまちなかに来やすい場所や、バス体系を皆さんでつくっていただきたい。基本的にはうちらも参加しなければいけない状況があると思いますけれども、大学、行政、地域という部分で、企業も含めた、これだけ郊外型の大学立地になっていますから、まちなかにどんどん入ってこられるかという、何百円も出して通えないというのが現状です。そういったところも含めて考えていただくとありがたいかなと思います。以上です。

【平川氏】 ありがとうございます。

まだ少々時間がございます。先ほど池田様から、すすきのから札幌駅まで歩くという部分がありました。私は学生時代、その場所を歩いておりました。お金がなかったのですけれども、「札幌」というまちに育ててもらったなという感じがすごくします。そして、さっ



き、100円とか150円と言いましたけれども、私はすすきのまで行けずに、そのはるか手前で、一杯100円くらいの梅干の入った焼酎をもっぱら飲んで、学生仲間4人で干した魚一枚をつついていたという経験があります。

一人一人の物語というのが齋藤様からも出たのですが、さまざまな歴史あるまちが、ここ新潟には3カ所ある。違って面白いなというのを聞かせていただいて、すごく感じたのです。違わなくて面白いのが、きっと全国どこへ行っても同じの郊外型ショッピングセンターなのではないかという気がします。

もし、まちに育ててもらうのであれば、それぞれの多様な経験ができる3地区であれ、あるいはそれ以外の地区であれ、そこでそれぞれの若い人が、あるいは若くない人が、さまざまな部分で自分自身の物語をつくって、もちろん、皆さんも、私自身も古町に対しての物語、あるいは万代についての物語、あるいは駅周辺についての物語があると思うのです。

学生にもよく言うのですが、一人一人が自分自身の人生の主人公になれよと。その主人公になる舞台がまちだと考えたときに、この舞台としてのまちが3つつながって、そこで若い人たちが育っていく。あるいは高齢の人たちが自分の思い出に浸ることができればいいのかなという気がします。余計な話をしましたが、私は最後、池田さんにまとめていただくという魂胆を持っております。池田様、最後よろしく願いいたします。

**【池田氏】** すっかり油断していました。駅、万代、古町の御三方とは、本当に10年来、以上のお付き合いです。市役所の強みで、県庁や国との大きな違いは、何か施策・事業をしようというときに、たった一人の顔が浮かぶことだと思っています。誰のためにやるのか。もちろん、松崎さんのためだけにやるのではなくて、古町をどうするかというときに、誰の顔が浮かぶかというのが非常に大事だと思っています。

いろいろな取り組みを市も、今日は具体的な絵がなくて申し訳ないのですが、ちょっと口幅ったい、やるのかやらないのかどっちなのかという話ばかりで恐縮なのですが、私個人としては必ずやるという覚悟を持って臨みたいと思いますし、それぞれの地区も手を携えるというのが大事だと思います。

例えば、横浜の商店街で元町があります。馬車道があります、伊勢佐木町があります。この、それぞれが手を携えて同じサービスをしているかという、そんなことは全然ない。それぞれでものすごくしのぎ合って、特色を持ったまちづくり、ショップづくり、取り組みをやっています。ぜひとも、仲が良くないと駄目だと思いますが、競い合う、しのぎ合うという関係で突き進んでいただければと思います。私もやれることは何でもやります。やれないことはできませんけど。

そういうことで頑張っていただければと思います。ありがとうございました。

**【平川氏】** 長時間といいながら2時間ですけれども、2時間あれば新幹線で東京まで着いてしまうのです。2時間でひとつの物語ができると思うのです。そして、これ以上、ここで議論するよりも、本日のテーマである「地域（まち）で考える都心の魅力とその将来」ということであれば、今日感じられたことを、ぜひ、まちに繰り出して、ご自身のまちを、あるい

はご自身を中心とした物語を、それぞれのまちでつくっていただければと思います。

本来であればフロアの方々からご意見をいただき、またそのフロアの方々からの意見をもっと思いましたが、限られた時間でございます。また、役者がそろっております。この役者を、今度は皆さん、お一人お一人の役者として、まちという舞台上でぜひ物語を紡ぎあげて、そしてまた、その舞台を大きくできれば、新潟のまちはもっと面白くなるんじゃないかな。そして私のように 30 年前に新潟のまちを捨てるということもないのではないかと、思います。

最後、無理してまとめたような形になりましたけれども、決してこれはまとめではなくて、今日が出発点だと思います。お四方、どうもありがとうございました。お四方に大きな拍手をお願いします。

以上、いたらぬ進行ではございましたけれども、これを持ちましてフォーラムを終了させていただきたいと思います。この後、司会にマイクを渡したいと思いますので、よろしくお願いたします。どうもありがとうございました。

## 5 . 開会あいさつ

中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」副座長 田中 豊 氏



拠点と賑わいのまち部会の副座長の田中でございます。本日は、皆さん、三連休の初日というお忙しい時期に多数お集まりいただき、しかも長時間に亘りフォーラムに参加して頂きまして大変有難うございました。

私なりに今回のフォーラムの意義をまとめてみますと、本日、パネリストとしてご参加頂いた御三方につきましては、今までこういう場で御三方が集まってお話をさせて頂いたことは、多分なかったのではないかと思います。そういう意味では、今回のフォーラムは、中心市街地活性化の活動の始まりの日であるということが出来ると思います。

それから、中心市街地を活性化するための「キーワード」というのは、再三、パネリストの方々から出ておりましたけれども、「われわれ住民ひとり一人が主体性を持って考え、行動するということと、他の地域のみなさんと協働でものを創り上げていくこと。」の2つが挙げられるかと考えます。

今後、皆さまにおかれましても、地域、地域でいろんな活動があると思いますが、その中で主体性を持って活動して頂くとともに、協力し合って少しでも住みやすい地域を創って頂くというをお願いして、このフォーラムの閉会の挨拶に代えさせていただきます。本日は、大変有難うございました。

## 6. アンケート集計結果

### 1) アンケート実施の目的

フォーラムに参加された皆様に対して、中心市街地の活性化について日頃、どのように感じているか、またフォーラムに参加し、どのような関心をお持ちになったかを把握することにより、今後の中心市街地の活性化、あり方に反映させていくことを目的とする。

### 2) アンケート実施概要

- 調査実施日：平成26年11月22日（土）  
「中心市街地活性化フォーラム」開催時
- 配布対象者：「中心市街地活性化フォーラム」聴講者全員 83名
- 回収枚数 : 54枚
- 回収率 : 65%

### 3) アンケート設問

- 設問選択：参加動機について  
フォーラムの感想について
- 記述設問：中心市街地の活性化、あり方、望むこと など
- 回答者の属性：性別、年齢、住まい

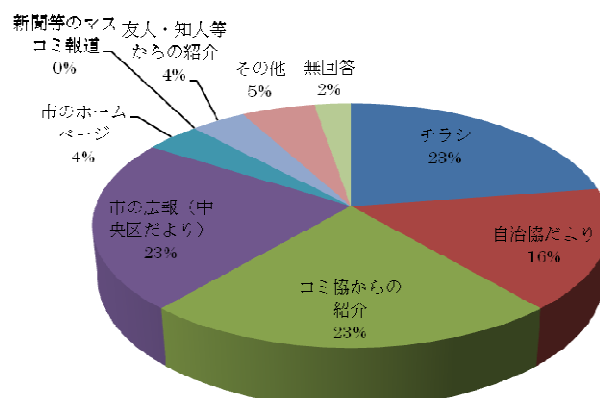




## 5) アンケート結果

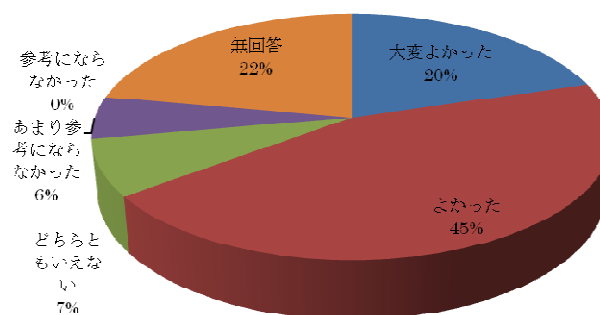
(1) このフォーラムを何で知りましたか（該当するすべてに○）

選択項目	件数	%
1 チラシ	17	22.7
2 自治協だより	12	16.0
3 コミ協からの紹介	17	22.7
4 市の広報(中央区だより)	17	22.7
5 市のホームページ	3	4.0
6 新聞等のマスコミ報道	0	0.0
7 友人・知人等からの紹介	3	4.0
8 その他	4	5.3
無回答	2	2.7
合計	75	100.0



(2) 本日参加された感想をお聞かせ下さい（1つだけに○）

選択項目	件数	%
1 大変よかった	11	20.4
2 よかった	24	44.4
3 どちらともいえない	4	7.4
4 あまり参考にならなかった	3	5.6
5 参考にならなかった	0	0.0
無回答	12	22.2
合計	54	100.0



(3) これからの中心市街地の活性化やあり方、望むことなど、ご自由にお書き下さい。

### ① 中心市街地の活性化・あり方へのご意見

- ・中央区役所の古町地区への実現！
- ・古町地区へのラーメン街（横浜市にある）、中華街（横浜市にある）の実現！
- ・BRT料金。思い切って、子供、学生証ある方、一定年齢以上の方、無料にすればいかがですか？ 世界の都市の例ではこれに近い現実があるそうです。
- ・夜の街がにぎやかにならないと、街の活性化につながらない。特に古町地区はそう思います。駅南は、風俗店が無いので、若人が安心して遊べるということで若い人が多く集まります。古町地区も夜がもう少し活性化されることを望みます。古町地区にも専門学校も多く、昼、夜が活性化されることを望みます。（新潟は古町がにぎわなければ活性化は無いと思います。）私達子供の頃は、古町は大人の町、大人の魅力があり、大人になったら行きたい町だった。そうゆう町づくりに行ってほしい。今の方向が若い人向が強いように思う。団塊世代に向け魅力のある町づくりを思っている。今の状態は中途半端なことが現実。
- ・活性化されることには、反対するようなことはないが、良くイメージをまとめ、現状あり

きの活性化をはなれて、大きなビジョンで取り組んでほしい。しかし、未来の世代に大きな負の遺産を残すようなことがないように考えてほしい。

- ・ 中心3地区の連携、協力、協同による活性化（連合会）
- ・ 行政にたよらない活性化策の実施
- ・ 購買か飲食の目的だけでは、まちなかには行きません。それに駅前・万代・古町はそれぞれをライバルとっていないようです。いつでも何かイベント（古町どんどん、食の陣など）を開催しているなど、ワクワク感が必要です。箱もの（再開発）はきっかけにしかすぎません。継続するためには、行政ではなく、市民でもなく、商店街の皆さんだと思います。考えているだけでなく行動を。期待しています。
- ・ 今あるものを活かすことを考える。
- ・ 楽しい「しかけ」（人がつどう）が少ないので工夫が必要。
- ・ 中心市街地の中の駅周辺に鳥屋野湯周辺も入れて下さい。
- ・ 新潟駅の連続立体化により、駅の北側の都市と南側の都市が結ばれることで、どのような影響がでるかの視点で話しあうと更におもしろいのでは！
- ・ 古町はさびれる一方。例えばイオンやコストコなどの若者やファミリーの集客力のある店舗立地の力を借りつつ、しもまちや沼垂、上古町のような新潟の特色を活かした街並みや取組を連携・競合させPRしていく仕組みが必要だと思う。
- ・ 歩かれる街、個性の豊かな街、緑とゆとりのある街。新潟駅から大和、三越まで歩けることが大事。バスはそういう意味で大切な足。ただ、郊外にある大型スーパーと張り合っては勝てない。ソフト面の工夫が一段と必要と思いました。
- ・ 街の発展は都市の拡大、連結が絶対必要だと常々思っています。問題は色々あるのは当たり前ですが、老若男女、幅広い市民で集まるこのようなフォーラムが多くあると、活性化の一助になるのでは。
- ・ 歩いて楽しむ町へ。 新潟島の歴史：古町地区の話はおもしろかった。万代の話はこれからどうするか？はあまりなかった。駅周辺と連携したいというのはいいと思います。人と物を動かすのが商店。万代と古町。万代は東京のいいものを取り入れる。駅南はビッグスワンなどがあるから、万代橋を中心にまとまっていく、つながりを付くって全体を盛り上げていこう。それぞれの街の特色を生かして、橋のつながりを作って交通の便を良くする、これしかないと思います。町が税金を払うのは40店（亀ジャストくらべて）
- ・ 集客力（魅力）を各店、環境等作らなくては、いくらインフラ整備をしても無駄ではないでしょうか。
- ・ 中心市街地の活性化は一般の人が必要としているのか。
- ・ 駅→万代→古町とブラリ散歩が出来る巡回的な楽しい道がほしい。もう一本橋がほしい。
- ・ 旧大和跡地の再開発に夢を（カルチャーセンター）。高齢者が集まるように、文化講座の教室等が出来る部屋が多くある建物などが良い。
- ・ 各地区において、昔からの苦労話も聞かされ、ためになりました。万代地区においては、商店に関して大型化し、にぎわい（昼間）があるが、夜間の人口も増えるように、飲み屋街も増やしては？ 地区の連携を持つことが大切ではないでしょうか。
- ・ それぞれ単発でイベントを開催しても、その時限り。金もかかり限界がある。これから国

の政治に関わる、地方創世。このことは地方が潤えるお金の流れが第一。現在の法人税収入が全て本社、本店の立地都市に入る、いわゆる、東京一極集中となっている税制を、各地にある支店や工場立地都市へも税の収入が、地方の役所の財政に組み込まれる制度に変更することで、新たなまちづくりの考え方ができる。

- ・古町をたっぷり歩きたい。古町に荷物預け（コインロッカー等）
- ・新バスシステムを早期に実施を！
- ・データを時系列的にみると古町が墮落！伝統にあぐらをかいている！変化をみない、金を出さない！それは時代的に経済的に構造的変化等あろうが「人が集まる魅力は何か」を真剣に考えていない。問題の本質を究めようとするのを考えていない！よく考えることです。それこそ覚悟が見えない！THINKだ！BRTより新潟島の魅力を考えることが先だ！
- ・新潟市中小企業振興基本条例に商業者の団結組織 新潟市商業振興新潟市市議会議員連盟（協）新潟市商店連合会 新潟市商店街連盟が議会・行政・商工会組織と連携・連帯しリーダーの育成等商業者が当事者として自覚のもと、自助努力
- ・「買い物をつたのしむ」ための工夫が必要。
- ・行政、地域、市民などみんなが力を合わせて、まちのことを考え、活性化のことを考えていく必要があると感じました。
- ・大昔は沼垂と古町・本町、ちょっと昔は万代と古町・本町がライバル同士で互いに切磋琢磨していたのかなと思う。当時、今の中央区関屋・西区・南区・西蒲区は古町・本町が「まち」だったし、中央区信濃川右岸・江南区・東区にとっては沼垂・万代が「まち」だった。それが政令市になったことでライバル心やしのぎあいがなくなったのかなと思う。中央区の区割りはまちが良かったという見識はまちがいでなかった。できれば分区というカンフル剤を投入せざるを得ないかなと思う。
- ・現在の商店街組合は、イベント屋になっているように思う。イベントの時だけ人が集まるのが中心市街地なのではないでしょうか。特に古町はウィークデーに人がいない。全く魅力がない。閑古鳥が鳴いているまちなか再生会議で古町は30年下がり続けてきた。商店街の方々が日々汗をかいている姿が全く見られない。人の金（税金）でイベントをやっている方、まずウィークデーに人が集うために何をするかを考えて下さい。
- ・商店街の活性化以上に街の可能性を引き出せる施策に取り組む必要がある。広場、文化発信、防災、健康づくり、これらのステージを設けて、活動していくことが活性化につながると思います。
- ・新潟のみならず、全国での中・小規模の都市での中心市街地のパワーダウンは否めないと思います。関西でも、近年梅田周辺は活発化ですが、周辺の商業地は苦しい状況と見受けられます。しかし、本日のフォーラムにもありましたとおり、「歩いて楽しい」街は、人が集まります。（京都を例にして）新潟市中央区の中心市街地には、活力が潜在的に備わっている、と大阪からの目には映ります。3地区「一体化」が3倍ではなく、3乗になるのではと思います。また、新潟に来た際、「劇的に」変わった街を見れること期待しています。
- ・高齢者の見守りの一環とし、市全体での友愛訪問活動の取り組みをやるべき……お年寄りが元気になれば、各町内も元気になれる。古町商店街も年寄り専門の商店が沢山あれば賑

わいが取り戻せるのではないか？

- ・ 駅周辺、万代地区、古町地区の3地区がそれぞれの特徴を生かした共同の理念・計画が必要。全体をT o t a l的に活性化する活動に期待。
- ・ 毎年3カ所で祭りは分散しておりますが、毎年1カ所に光を当て、あとの2カ所は充電、勉強する時間にしてはと思います。3カ所が一つになっていかないと発展はないのではないかと思います。
- ・ 市による明確な位置づけ…個別に所見されるも必要性の定義がほしい。…他地区に勝る位置づけが本市には明確化されているのか、よく見えないが…。
- ・ それぞれの地域の魅力を引き出し、お金がなくても楽しめる空間がたくさんあった方がよい。また、歩きやすい整備をしてほしい。(車をできるだけ排除、緑化・広場・カフェなど人にやさしいもの)
- ・ 市内の拠点である万代、古町、駅前のまちづくりの連携が取られているとは思えず、バラバラ感がある。
- ・ 古町中心部に人が集まる施設群(これは現実性ない?)ないしは総合センター(若者と元気な高齢者が集まる。大和跡地程度ではなく、もっと広くもっと高層ビルを建て、1F~すべての娯楽、展覧会、美術館、スポーツ施設、映画、ダンスホール等々集中)周辺の駐車場群もまとめて利用料金を安くする。このことによってBRTバスの効果も上がり、にぎわいがとり戻せるのではないか。高齢者は金はあるが足が弱い。一つの施設ですべてができる総合センターがよい。エレベーター、エスカレーターで移動ができるから。
- ・ BRT 駅から市役所に無料又は100円で乗車。いかがでしょう。みんな乗りますよ。市バスという形で運営できたら実現できるのではないのでしょうか。
- ・ 旧大和をセントラルパークに
- ・ 新潟市は日本有数の港町です。佐渡航路を含めた港とつながる発想もあって良いと思う。
- ・ 人が集う場が中心地にあると良い。夜の社交場がなくなった。居酒屋だけがなくなった。

## ② フォーラムの感想・その他

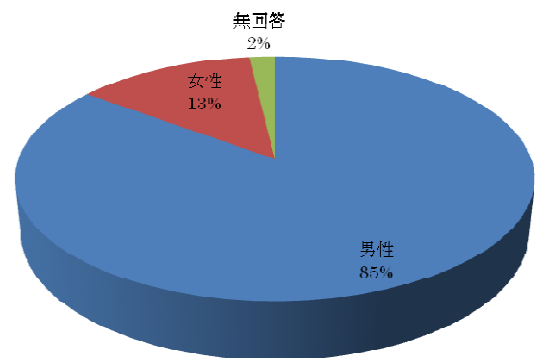
- ・ 特に池田氏のお話がユメが持てる
- ・ 平川先生の進行が良く、すばらしいフォーラムになったと思う。
- ・ 本当の今回の発表内容で活性化が出来るのか?はなはだ疑問です。
- ・ 「都心」魅力とは、明確な見解は述べられてないと感じた。「人が交流する所」行ってみたい所(店など)があるなど、人の活発な動きがある所を目指すのが妥当。それには町の至る所へは網目のような交通システムがどうしても必要。細かい配慮、隅々まで行き届いた配慮をしていくことが大切ではないかと感ずる。
- ・ 新潟市の“中心市街地”というものの概要と、その問題点等を知ることができた。②各中心市街地の取り組みを知り、心強さを感じた。③一方、各中心市街地の連携(思想的にも活動的にも)が希薄という感じがした。④今後、更なる発展を新潟市として追求するのであれば、全体の中の各中心市街地という見方、考え方が必要かつ重要なことと強く感じた。(パネラーにはこの種の発言もあったので、これからそれをどう集約していくかではないでしょうか。)

- ・ B R T 導入ありきで話が構築されていて、とても残念だった。本当に民意を反映しているのか？一部の企業に利益誘導しているようにしか思えない。B R T は白紙に戻すべき。中心市街地活性化でなく、B R T 導入フォーラムとしか思えませんでした。
- ・ 各商店街の方の思いが伝わりました。客として、市民として訪れる街の裏方の皆さんの考えを聞くよい機会でした。それぞれが競い合い、しのぎあう活動をという言葉が心に残りました。にいがたのまちがいつまでも発展するよう祈っています。
- ・ 全体に良いフォーラムであった。次回もあれば参加したい。
- ・ 広くこのような広報事業を展開し、市民コンセンサスを拡げて欲しい。

(3) あなたのことをお聞かせ下さい (1つだけに○)

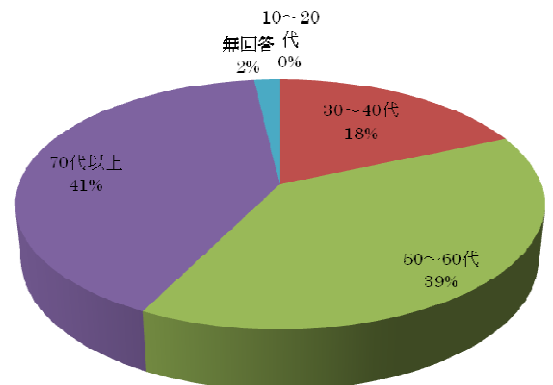
■性別

選択項目		件数	%
1	男性	46	85.2
2	女性	7	13.0
	無回答	1	1.9
合計		54	100.0



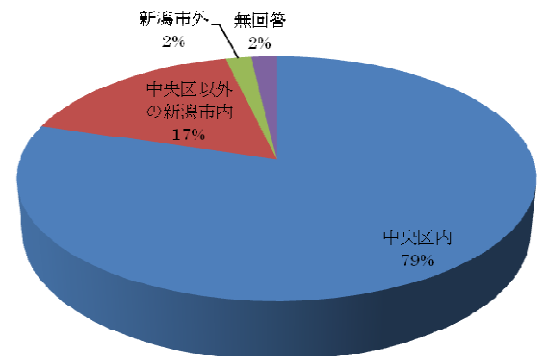
■年代

選択項目		件数	%
1	10~20代	0	0.0
2	30~40代	10	18.5
3	50~60代	21	38.9
4	70代以上	22	40.7
	無回答	1	1.9
合計		54	100.0



■お住まい

選択項目		件数	%
1	中央区内	43	79.6
2	中央区以外の新潟市内	9	16.7
3	新潟市外	1	1.9
	無回答	1	1.9
合計		54	100.0





## 7 . おわりに

### 中心市街地活性化フォーラムを振り返って

第4期中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」では、平成25年度から2カ年にわたり自治協提案事業として「中心市街地活性化フォーラム」の実施に取り組んでまいりました。

平成25年度は、中央区内のまちづくり団体等へのアンケート調査や、意見交換会を行い、フォーラム開催に向けた基礎情報の把握に努めました。

中央区は、本州日本海側唯一の政令市である新潟市の中心に位置し、住む人、訪れる人にとって魅力的で活力あふれる拠点のまちであることが求められています。

こうした中央区の特性を踏まえ、今年度、『地域で考える「都心」の魅力とその将来』と題し、中心市街地活性化フォーラムを開催しました。

中央区の中心市街地に位置づけられている「古町エリア」「万代エリア」「新潟駅周辺エリア」でまちづくりに携わる有識者、及び新潟市の都市政策部長をパネリストにお迎えし、それぞれの立場から、これまでの取り組みやまちづくりにかける想いを語っていただきました。

長年にわたり培った経験に裏付けられたお話は、どれも興味をそそる含蓄のある内容で感銘を受けました。まちづくりは、地域の特性を踏まえ、志のある者が絶え間なく創意工夫を重ねていくことで、それを受け継ぐ人材が育ち、やがて大きな輪となって連綿と受け継がれていくものであると感じました。

また、当フォーラムでは、それぞれの拠点地域で活動する有識者が一堂に会して意見交換がなされました。このことは、画期的な取り組みであり、お互い同士が今後一層連携を深め、新潟市のまちづくりの一端を担っていくことを期待します。

最後に、当「拠点と賑わいのまち部会」委員一同、2年間にわたり手探り状態で提案事業の実施に向けて取り組んできました。まだまだ満足のいく成果には程遠い状況でありましたが、まちづくり団体等はじめ関係者の皆さまのご協力の下、無事に任務を果たすことができましたことに、心より感謝申し上げます。

#### 【部会員メンバー】

- ・高橋 幸夫（座長）    ・田中 豊（副座長）    ・沢井 浩（書記）
- ・浅野 昌禧    ・佐藤 豊    ・三條 澄    ・関本 竜一
- ・長谷川 喜昭    ・牧野 秀樹    ・水品 仁一    （計10名）

事務局：新潟市中央区役所 地域課 企画担当